

令和2年度（2020年度）

# 事業報告書

令和2年（2020年）4月 1日から  
令和3年（2021年）3月31日まで

一般財団法人 MRAハウス

## 目 次

### 令和2年度（2020年度）事業報告

|                           |          |    |
|---------------------------|----------|----|
| ＜新事務所への移転＞                | ・・・・・・・・ | 1  |
| ＜事業の概況＞                   | ・・・・・・・・ | 1  |
| ＜公益目的事業＞                  | ・・・・・・・・ | 1  |
| 【Ⅰ】『国際相互理解の増進』を図る事業（継1）   |          |    |
| 【自主事業】                    | ・・・・・・・・ | 1  |
| 【助成事業】                    |          |    |
| 1) 学生団体                   | ・・・・・・・・ | 1  |
| 2) 一般団体                   | ・・・・・・・・ | 4  |
| 3) 特別枠                    | ・・・・・・・・ | 5  |
| 【寄付事業】                    | ・・・・・・・・ | 6  |
| 【会費】                      | ・・・・・・・・ | 7  |
| 【Ⅱ】『国際リーダー・人材育成』を図る事業（継2） |          |    |
| 【助成事業】                    | ・・・・・・・・ | 7  |
| 【Ⅲ】『民間公益活動の振興』を図る事業（継3）   |          |    |
| 【助成事業】                    | ・・・・・・・・ | 9  |
| 【寄付事業】                    | ・・・・・・・・ | 10 |
| 【会費】                      | ・・・・・・・・ | 10 |
| ＜その他の事業＞                  |          |    |
| 【自主事業】                    | ・・・・・・・・ | 10 |

# 令和2年度（2020年度）事業報告

## <新事務所への移転>

昭和27年に設置されたMRAハウス、昭和44年に新築されて以来65年余り、三代目となる新MRAハウスは元の南麻布の地に建設されたレフィール南麻布の1Fが事務所となっている。新事務所は2020年3月末に完成し、6月に仮事務所の六本木から南麻布に戻った。2020年度はコロナ禍により新事務所のお披露目は延期された。

## <事業の概況>

2020年度の助成事業は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、半分以上の助成事業が中止を余儀なくされた。また中止されなかった事業でもオンライン開催など事業内容を変更しての開催となった。それを受けて当財団は柔軟に変更申請の承認を行った。オンラインでの会議は、対面で会うことができないデメリットがある一方で、遠隔地にいる人が移動時間や経費などにコストをかけずに気軽に参加できるというメリットもあり、今までは参加できなかったゲストやOBも参加可能となった。また、ホットな話題の第一人者をスピーカーに招いた世界規模のウェビナーも活発化した。しかしながら、国際相互理解においては、特に若い世代において、対面でのふれあいを通じた本音の交流が重要でもあるため、今後はwith コロナ下でのハイブリッドな開催形態が模索されている。新型コロナウイルスの一日も早い収束を祈るばかりである。

また、自主事業に関しては、従来から行っているOCA国際交流事業とともに、新しく若手リーダー育成研修事業を行うべくその準備を開始した。前者については、新型コロナウイルス感染拡大によってオフラインの活動を行うことができなかったが、オンラインでの事業に切り替え、また、運営体制を強化した。

## <公益目的事業>

「国際相互理解の増進」、「国際リーダー・人材育成」、「民間公益活動の振興」を図る事業においては、特に「国際相互理解の増進」の事業で新型コロナウイルスの影響で中止となる事業が多く、学生団体の事業では7割が中止または助成金の辞退という状況になった。

## 【I】「国際相互理解の増進」を図る事業（継1）

### 【自主事業】

#### ●国際交流プログラムの推進（OCA国際交流事業）

##### 1) 新型コロナウイルス流行による事業計画の改定

3月からの新型コロナウイルスの流行により、事業計画を改定し対応を試みた。なお、会議はほとんどすべてオンラインで対応している。

##### 2) プロジェクトの中止

- ①タイ学生訪日研修
- ②サマーキャンプ
- ③メーコックボランティア
- ④北部タイツアー
- ⑤アジアンビートプロジェクト

- ⑥オフラインのスクールプロジェクト支援
- ⑦UWP への派遣支援

### 3) 新しい事業計画に従って実施した主な事業

海外渡航や集団行動が規制される中、オンラインで以下のようなプログラムを企画・実施した。

#### ①オンライン4大学セミナー

2021年3月16日、チュラロンコン、MFU、中央、埼玉の4大学がオンラインでセミナーを開催。参加学生55名。事前にビデオを配信して事前勉強を行い、当日は日タイの学生が複数の部屋に分かれて講義を受けたあとテーマにつき討議した。

#### ②オンライン学生交流プログラム

2021年度のタイ学生日本研修プログラムが中止されたため、日タイの大学関係者と話し合い、オンラインで4大学の学生交流プログラムを2021年6月に行うこととし、同年3月20日に4大学の学生代表が集まり、プログラム内容を話し合った。

#### ③オンラインアジアンビート

第1回 2021年3月27日～4月18日、第2回 同年6月12日～7月4日。

日本内外のアジアの参加者が集まり歌やダンスを通じてアジアにメッセージを発信する動画をオンラインで制作する事業である。これを通じて友情を育み、将来のオフラインのアジアンビートプロジェクトで再会し、韓国、台湾を訪問することを予定している。このプロジェクトの準備作業が2020年度の予算ではじめられた。実施は主として2021年度の予算で行われる。

#### ④オンラインメーcockビジット

2021年1月24日、メーcockのチャリティ募金に協力して頂いた個人の皆さんをオンラインでメーcockに招待し交流を行った。

#### ⑤オンラインスクールプロジェクトへの協力

プロジェクトの内容自体は後記【助成事業】2) 特別枠①(P5)のとおりである。

### 4) 運営体制の強化

多くのプロジェクトが中止せざるを得ない状況の中、この時期に行っておかなければいけないことを進めることとした。具体的には以下の作業を行った。

#### ①旅行業者の変更

これまで依頼してきた旅行業者から新しい旅行業者への変更をした。

#### ②旅行保険の変更

コロナウイルス他感染症対策のために疾病、疾病死亡に対応する保険、渡航先での地震、噴火、津波、戦争、避難勧告等一般の旅行保険ではカバーされない項目、さらに事故時に救援者が現場を訪問する保険を付保することとした。

#### ③リスク管理マニュアルの作成

リスク管理委員会を設定し、リスクシミュレーションを行い、事故等リスクをどのように防ぐか、事故が起こった時にどのように対処するかを話し合いリスク管理マニュアルの作成を行った。

#### ④ホームページの作成

プロジェクトの情報を広く海外の人たちと共有するために2つのHPを立ち上げた。アジアンビートHP(2020年9月に完成)は日本語、英語、台湾語、韓国語の4か国語のサイトを作成した。オンラインアジアンビートプロジェクトでアジアンビートHPが生かされ、第一回プログラムに25人の定員募集を行ったところ日本から16人、海外から15人合計31人の参加者を確保できた。海外のメンバーは韓国4人、台湾7人、タイ2人、インドネシア2人となった。

日タイ交流HPは日本語と英語の2か国語のサイトで2021年4月完成予定である。

#### ⑤台湾、韓国の現地スタッフの強化

これまで台湾、韓国でのアジアンビートメンバーの募集、現地でのアレンジ等の作業を台湾

はシングアウト台湾に、韓国はプルリムに頼ってきた。コロナの影響から両団体とも急激に活動を縮小し、アジアンビートのメンバー募集、現地でのアレンジ等ができなくなってきた。オンラインアジアンビートのメンバー募集等を通じて現地で協力してくれる仲間を増やしてゆくため、アジアンビートHPを使って現地スタッフを募集し、独自にメンバー募集、現地でのアレンジを行うこととした。

⑥メーコックファームとの交流活動と寄付

上記3)④のとおりオンラインでの交流を行った。タイのメーコックファームはコロナの影響で収入が減少し財務状況が悪化したため、寄付を呼びかけた。当財団からの2020年度の寄付は後記【寄付事業】③(P7)のとおりである(なお、バーンロムサイへの寄付(後記【寄付事業】④P7))は本年もOCA国際交流事業の一貫として行われている。)

⑦OCAの理念と理念を実現する方法の確認

理念を再度メンバーで共有し、各プロジェクトでどのように理念を実現して行くか協議しまとめた。

## 【助成事業】

### 1) 学生団体

①日中学生会議

第39回日中学生会議➡中止

②日本ロシア学生会議

第32回日本ロシア学生会議➡中止

③日韓学生フォーラム

第36回日韓学生フォーラム

【メインフォーラムの韓国開催を中止し、オンラインで開催】

テーマ：『Beyond the Wall』

参加者：日本側11人、韓国側：15人

◆1月～7月：月2回の勉強会を実施(オンライン)

◆8月13日～8月20日：メインフォーラム実施(オンライン)

◆9月26日：報告会を実施(オンライン)

8月のメインフォーラムでは、テーマ別分科会(政治、経済、社会、文化、歴史)を開催し、事前活動で準備した個人研究の発表とそれに伴う討論を行った。また、コンファレンス・テーブルでは、日韓に共通する社会問題について2つの立場に分かれてディベートを行った。その他、OGOBセミナー、文化交流などを実施

④International Week West Japan

第8回 International Week West Japan➡中止

⑤日中青年会議

第12回日中青年会議➡辞退

⑥慶応義塾大学 福利厚生機関 国際関係会

P.A.L. Project2020➡辞退

⑦国際教養大学 北東アジア学生ラウンドテーブル

北東アジア学生ラウンドテーブル2020➡中止

⑧IDFC(日本ミャンマー学生会議)

IDFC for Myanmar and Japan Youth Leaders 2021

【2月のクーデターにより対面での本会議を中止し、4回のオンライン会議を開催】

テーマ：『Recreating the Future』

参加者：日本側 実行委員：9人、一般参加者：10人～20人

ミャンマー側 実行委員：11人、一般参加者：数名

- ◆10月28日：第1回オンライン会議『日本ミャンマーオンライン文化交流』
- ◆12月16日：第2回オンライン会議『日・ミャンマーにおける若者の社会参加』
- ◆1月23日：第3回オンラインイベント『ASEANの学生と考える多文化共生』
- ◆2月28日：本会議『ミャンマーの未来のために』

オンライン会議では、毎回異なるテーマを掲げ、様々なゲストを招待し、様々な視点から見る日本・ミャンマーについて多くの学生に周知した。最後の本会議では、2月に発生したクーデターについて学び、今何ができるかを考えた。

## ⑨京論壇 2020

### 京論壇 2020

【渡航・対面での本会議は断念、東京と北京にそれぞれ集まりオンラインで開催】

参加者 日本側：19人 中国側：19人

- ◆6月~9月：勉強会（週1~2回程度）（オンライン）
- ◆11月~1月：勉強会（週2回程度）（オンライン）
- ◆10月1~8日：本会議（オンライン北京セッション）
- ◆2月15~21日：本会議（オンライン東京セッション）
- ◆2月21日：最終報告会実施（オンライン）

本会議は東京側と北京側でそれぞれ集まり、オンラインで1週間の議論を行った。

10月の北京セッション、2月の東京セッション共に分科会のテーマは『医療技術と死生観』、『日中関係と偏見誤解』、『新時代の人間関係』の3つであり、議論を深めた。

## ⑩日本・イスラエル・パレスチナ学生会議

日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議➡中止

## 2) 一般団体

### ①特非) エデュケーション・ガーディアンシップ・グループ

第25回海外高校生による日本語スピーチコンテストならびに

日本青少年と海外青少年による異文化理解及び交流プログラム➡中止

### ②認定・特非) 外国人看護師・介護福祉士教育支援組織

タイピン地域における日本語学習増加プロジェクト➡中止

### ③特非) シニアボランティア経験を活かす会

JICA 長期研修員参加による小・中・高生の国際理解・国際交流の促進➡辞退

### ④G7/G20 Youth Japan

2020年度 Y7/Y20 Summit 日本代表団派遣

【G7/G20のオンライン開催に伴い、事前勉強会や本会議もオンラインで実施】

参加者 Y7 日本代表団：4人 Y20 日本代表団：3人

- ◆5月16~17日：Y7サミット ディスカッションイベント（オンライン）
- ◆6月3~5日：Y7サミット（オンライン）
- ◆7月19日：Y20サミット オンラインディスカッション
- ◆8月23日：ユース・フューチャー・フォーラム
- ◆10月12~14日：バーチャル・サミット
- ◆10月15~17日：Y20サミット（オンライン）

2020年はG7がアメリカ、G20がサウジアラビアが開催予定地であったが、コロナの影響でオンライン開催に変更になったことでY7とY20もオンライン開催となった。Y7では、G7メンバー国、欧州連合、アフリカ連合から32名のユースが集結し、平和と安全保障、国際性と貿易、エネルギー、教育の4分野について議論を交わし、その結果をG7に提言した。Y20では、G20メンバー国の代表団約60名が政策提言に向けた交渉の他に、政府関係者との意見交換、ディスカッションセッションなどの多様なプログラムを実施。代表団は各国政府との交流やアドボカシー活動などの使命も継続している。

### ⑤(特非) 世界青年友の会

フィリピン地方都市における小中学生対象実験出前授業

【現地に出向いての実験は断念したが、オンラインによる実験授業を実施】

参加者 世界青年友の会実施グループ：5人、理事会有志：10人

公益財団法人小山台教育財団職員：1人、

サイエンスハイスクール・ヴィサヤキャンパス高校教師及び3年生：20人

◆8月1日：日比合同チーム発足

◆9月12日：オリエンテーション

◆9月19日：開会式、オンライン実験授業『折り紙飛行機』

◆9月26日：オンライン実験授業『万華鏡・粘土回路』

◆10月3日：オンライン実験授業『塩の結晶化・ポリマー発芽』

◆10月20日：閉会式

◆10月24日：日本側反省会

コロナによりフィリピンへの渡航不可能となり、現地での実験は断念したが、現地の高校生と4回のオンライン会議で相談しながら準備を進め、3回の実験授業をオンラインで実施。オンラインによる実験事業は初めてだったが、初回としては成功と言える。今後はより分かりやすい実験や文化交流を通じてより完成度の高いプロジェクトを目指す。

## 3) 特別枠

### ①(特非) コモンビート (OCA国際交流事業関係)

#### ●スクールプロジェクト

学校訪問は中止し、オンラインでのコンテンツを配信するオンライン授業を開催。8月から教育法人カタリバへのコンテンツ配信も開始し、継続的にプログラムの提供を行っている。

◆開催プログラム合計数：102 参加生徒合計人数：642人

#### ◆主な提供プログラム

- ・世界のダンス教室 (ダンス×世界)
- ・カラダ de ENGLISH (体を動かす×英語)
- ・おうちで小劇場 (演劇)
- ・生き方探検隊 (対話×様々な生き方)

#### ●Up With People 国際教育プログラム参加支援制度⇒中止

### ②(特非) Sing Out Asia

#### ●クロスカルチャー・トレーニング・プログラム⇒中止

#### ●アカペラ・プログラム⇒中止

### ③(公財) 日本国際交流センター

#### ●民主主義の未来研究会：

『サニーランズ原則 Follow up 会議、ウェブサイトコンテンツの充実化と広報』

【国会議員と研究会有志メンバーによるアジア視察訪問をウェブサイト公開やオンライン会議等に変更】

世界的に民主主義の後退が叫ばれている中、コロナ禍における政府の行き過ぎた権力行使やポピュリズムの台頭により、国際秩序と普遍的価値が脅威に晒されている現状を理解し、日本としていかなる政策を展開すべきかを検討するため、国会議員、政府関係者、NGO リーダー、研究者等による政策対話、海外派遣ミッション、調査・研究等の活動をオンラインで実施した。また、ウェブサイトコンテンツのさらなる充実と広報も行った。

- ◆11月24日：サニーランズ原則 Follow up 会議（オンライン）  
前半『サニーランズ原則とインド太平洋地域の民主的ガバナンスの構築について』  
パネリスト：3人、参加国会議員：10人  
後半『インド太平洋地域における民主的ガバナンス実現のための協力とパートナーシップ構築』 ➡ 一般公開のウェビナー  
パネリスト：4人、ビデオメッセージ：1人、参加者：70名
- ◆ウェブサイトコンテンツの充実と広報
  - 1) ビデオインタビューシリーズ
  - 2) 英文の文献・資料の和訳紹介
  - 3) オンラインによる対談・鼎談
  - 4) ニュースレターの定期発行

●日米青年政治指導者交流プログラム：

『日本代表団オンライン交流プログラム』

【第30回日本代表団の米国派遣は中止し、オンライン交流プログラムを実施】

米国から様々なスピーカーを招き、7回のブリーフィング・セッションを実施した。日本側代表団は、超党派の地方議員および政党職員9名が参加した。なお、多くの参加者が所属する地方議会が開会中であつたため、ブリーフィングセッションに直接参加できない場合は、事前質問を受け付け、録画を視聴して貰うなどの工夫を行った。

- ◆第1回：2021年3月10日 『米国政治概観』
- ◆第2回：2021年3月12日 『バイデン政権の外交政策』
- ◆第3回：2021年3月17日 『政治と企業』
- ◆第4回：2021年3月19日 『州議会の権限と役割（ハワイ州の取り組みから）』
- ◆第5回：2021年3月23日 『2020年米国大統領選挙』
- ◆第6回：2021年3月25日 『米国における政治的・社会的分断』
- ◆第7回：2021年3月31日 『バイデン政権における日米関係』

【寄付事業】

①公財) 国際 IC 日本協会

- 学校訪問プログラム ➡ 中止
- 第42回 IC 国際会議

【対面での会議ではなく、オンライン会議で実施】

世界は経済のグローバル化が進展し、社会的・経済的格差の拡大や移民問題も深刻化している。その中で新型コロナの世界的感染拡大により多くの国で医療崩壊の危機に直面して、移動や流通の制限により世界経済は大きな打撃を受け、内向き志向の加速や様々な問題が表面化している。このフォーラムにおいて、様々な背景を持つ国内外の多彩な参加者と話し合い、自分を見つめることを通じて、どのような家庭を築き、どのように社会に貢献するか、また危機を乗り越えて持続可能な平和な世界を目指すための役割は何かを考える機会となった。

メインテーマ『危機における変革力 ～ピンチをチャンスに～』

サブテーマ『私達はどんな未来をつくりたいのか！』

- ◆10月24日～25日（オンライン）  
海外参加者：26人、国内参加者：25人
  - ・インドのセッション  
5人のスピーカーによる講演と質疑応答
  - ・日中韓フォーラムのセッション  
これまでの参加者10人によるフリートーク
  - ・学校訪問プログラムのセッション



過去の海外からの学校訪問参加者 13 人による経験談と今回のテーマに沿った意見の発表

上記セッションの他にも基調講演、静かな時間、グループディスカッションを実施

●寄付金（団体賛助会費）

寄付金として団体賛助会費を支払った。

②原美術館

●企画展『光・呼吸 時をすくう 5 人』展 関連イベント開催

【コロナの影響で 4 月開催開始から 9 月開催開始に変更】

原美術館閉館前の最後の企画展が 9 月 19 日～2021 年 1 月 11 日に開催された。

その関連イベントを 5 つ実施

◆9 月 20 日 鼎談：今井智己×城戸保×佐藤時啓

イベントの様子を収録・編集しネット配信を実施（視聴回数：約 3,000 回）

◆10 月 3 日、10 月 18 日 佐藤時啓「リヤカメラで街をのぞいてみると…！」

参加者数：計 32 人

◆11 月 8 日 城戸保「突然の無意味を探そう！」 参加者数：10 人

◆11 月 28 日 今井智己「ルールの下での展示 模型 作り」 参加者数：10 人

◆静かなゲリラリサイタル 計 4 回実施

③メイコックファーム タイ・孤児院への寄付（OCA 国際交流事業関係）

④バーンロムサイ タイ・孤児院への寄付（OCA 国際交流事業関係）

【会費】

①国際文化会館 法人会費

②日本国際交流センター 法人会費

③日本国際交流センター 三極委員会 賛助会費

④JANIC 年会費

【Ⅱ】「国際リーダー・人材育成」を図る事業（継 2）

【助成事業】

①公財）日本国際交流センター

●第 13 回 JCIE 田中塾

【全てオンライン開催に変更】

田中シニアフェローを塾頭とし、各界の将来を担う次世代リーダー約 20 名を対象に、不確実性が増す国際情勢の変化の中で、いかなる日本外交を展開すべきかを議論の底流にして年度後半から 6 回シリーズによる集中型講義を実施した。参加者はのべ 200 名を超え、自身の分野に偏らない視野を広げると同時に、議論力を鍛えると共に、異業種間の意見交換の機会を提供してきた。

テーマ：『ポストコロナ時代の世界地図 日本外交の再定義』

◆第 1 回：1 月 22 日 国際関係の構造変化：コロナがもたらしたもの

◆第 2 回：1 月 29 日 米国：バイデン政権のこれからを占う

◆第 3 回：2 月 12 日 中国：習近平体制の行方

◆第 4 回：2 月 26 日 朝鮮半島：朝鮮半島問題の展望

◆第 5 回：3 月 12 日 欧州：欧州とロシアの展望

◆第 6 回：3 月 26 日 日本：日本の将来展望

## ②公財) 国際文化会館

- 新渡戸リーダーシップ・プログラム (新渡戸国際塾) ➡中止
- アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) ➡中止

### ●インド太平洋次世代リーダーによるウェビナーシリーズ

【上記の2事業、新渡戸リーダーシップ・プログラムとAPYLPを変更して、現在のコロナ禍の先にあるアジアと世界について考えるウェビナーを開催】

新型コロナが国境を越えて猛威を振るう中、世界の一部ではナショナリズム、人種差別などの精神的な分断が加速している。だが感染症の問題に対処するには近隣諸国との連携が欠かせない。アジアを代表する様々な分野のリーダーによる対話の機会を創出し、分断と対立に取って代わる、連帯と協力の空気を醸成する。また、人間のつながりを保った世界をどう再構築できるのかを、多様な切り口から考える機会をウェビナーとして実施。2020年9月～2021年3月に、現在のコロナ禍の先にあるアジアと世界について考える誰でも参加できる無料のウェビナーを7回実施した。各回2時間程度、同時通訳付き。オンライン開催の利点を活かし、国内外からオーディエンスを募ったところ、年齢や国籍に関係なく、世界情勢や社会問題に関心の高い層が多数参加した。

視聴回数(ライブと録画配信)は第5回までは4千回程度、最後の2回は千回程度

#### ◆第1回: 1月15日「オードリー・タン氏との対話」

スピーカー: オードリー・タン(台湾デジタル担当政務委員)

#### ◆第2回: 1月22日「コロナ禍における教育格差と新しい時代の教育実践」

ビデオメッセージ: マララ・ユスフザイ(教育活動家、ノーベル平和賞受賞者)

スピーカー: 小林りん(UWC ISAK ジャパン共同創設者・代表理事)

キャシー松井(アジア女子大学支援基金財団理事会メンバー)

#### ◆第3回: 1月29日「アジアの世紀—21世紀のテクノロジーと地政学」

スピーカー: パラグ・カンナ(グローバル戦略アドバイザー、FutureMap創設者)

#### ◆第4回: 2月5日「未来の建築—新しい空間とつながりの創造にむけて」

スピーカー: 藤本壮介(建築家)、マン・サム・ウォン(建築家、WOHA設立者)

#### ◆第5回: 2月12日「アジアにおける#MeToo—性暴力に共に立ち向かうには」

スピーカー: 伊藤詩織(ジャーナリスト、Asia 21 ヤング・リーダー)

ビデオメッセージ: トム・ナゴルスキー(アジア・ソサエティ副会長)

#### ◆第6回: 3月5日「アジアにおけるLGBTQと同性婚—誰もが暮らしやすい社会とは」

スピーカー: ジェニファー・ルー(Taiwan Equality Campaign 事務局長)

杉山文野(株式会社ニューキャンパス代表取締役)

#### ◆第7回: 3月26日「アジアにおける都市の未来—ウェルビーイングを追究するスマートシティの在り方」

スピーカー: チョン・ジェスン(韓国科学技術院)

エルウィン・ビライ(シンガポール工科デザイン大学教授)

## ③特非) アジア・コミュニティ・センター21

### ●日韓みらい若者支援事業

【コロナの影響で移動や対面での活動が制限され、オンラインで実施】

本事業では、日韓両国および在日コリアンの若者たちが日韓関係の創造性ある未来を志向する姿勢を涵養し、新しい日韓関係の構築に向けた実行能力を身に付けるのを支援することを目的とする。2019年11月に本事業を立ち上げたが、2020年度は日韓関係の歴史を日本の若者たちが、在日コリアン(韓国人・朝鮮人)の若者たちの参加と協力を得て直視した。将来は韓国の若者たちの参加を得て、2国間の共通の歴史観を育む活動を行う予定。

#### 1) 日韓に関わる団体の実態把握と対象候補者/団体の特定

本事業で計画された各活動を行うにあたり、日韓に関わる市民団体の全体像を

把握し、本事業への参加を呼び掛ける対象者／団体を特定する必要があったので、日本全国の約 110 団体にコンタクトを取り、28 団体の組織・活動内容について情報を収集した。それを『日韓関係ダイレクトリー』として冊子にまとめた。

## 2) 学習会活動 (計 3 回実施)

- ◆第 1 回学習会 12 月 28 日 参加者：12 人  
3 つの学生団体の代表者が、所属団体の設立経緯、メンバー構成、日常の活動、イベント等について発表した。
- ◆第 2 回学習会 1 月 30 日 参加者：10 人  
講演テーマ：「多様性の中の在日コリアン～置き去りにされた在日の歴史～」
- ◆第 3 回学習会 3 月 27 日 参加者：17 人  
講演テーマ：「韓国の歴史教育と歴史教科書」

## 【Ⅲ】「民間公益活動の振興」を図る事業 (継 3)

### 【助成事業】

#### ①公財) 日本国際交流センター

##### ●ダイバーシティ社会推進プロジェクト：『日米女性指導者オンライン会議』

##### 【日米女性指導者の訪米交流をオンライン会議に変更】

新型コロナウイルス 感染拡大という未曾有の危機にあり、女性指導者はいかなる役割を果たしていくべきか、いかなる国際的な協力を推進していくべきか、あらためて今こそ日米の女性指導者 (議員、企業関係者、NGO、メディア、民間財団、シンクタンク) が対話を通じて様々な方策を検討すべき時であり、2 回のオンライン会議を開催した。

##### ◆第 1 回オンライン会議：2021 年 3 月 24 日 9:00～10:00

『COVID-19 の国内課題への影響—危機から強靱性を育てる』

日本側 共同座長：野田聖子衆議院議員 参加者：14 人

米国側 共同座長：ダイアナ・デグット米国連邦下院議員 参加者：11 人

##### ◆第 2 回オンライン会議：2021 年 4 月 14 日 9:00～10:00

『コロナ禍を超えて—グローバルな視点をもった日米協力』

日本側 共同座長：野田聖子衆議院議員 参加者：16 人

米国側 共同座長：ダイアナ・デグット米国連邦下院議員 参加者：9 人

それぞれの回で、論点概要、今後の課題をまとめた。

#### ②公財) 公益法人協会

##### ●2020 年度民間法制・税制調査会

##### 【訪米調査団の訪米中止、調査会・勉強会の実施回数縮小】

本調査会は主に政府による公益法人のガバナンス対策に対する対応、非営利法人の小規模法人対策、会計基準対策など、我が国における市民社会セクターが直面する課題と制度改正のニーズを調査する。本調査会の一環で実施する訪米調査はコロナの影響で中止となった。調査会は当初の予定より縮小し 6 回の開催となった。調査会の結果を報告書『民間法制・税制調査会』にまとめた。

##### 【調査会実施状況】

- ◆06/22 第 1 回 NPO 法人会計について:公益法人の会計と「会計基準」上の問題点
- ◆07/30 第 2 回 公益法人のガバナンスの更なる強化等に関する有識者会議への対応
- ◆08/24 第 3 回 公益法人のガバナンスの更なる強化等に関する有識者会議への対応
- ◆09/28 第 4 回 公益法人のガバナンスの更なる強化等に関する有識者会議への対応
- ◆11/30 第 5 回 公益法人のガバナンスの更なる強化等に関する有識者会議への対応
- ◆01/18 第 6 回 社会福祉法人・学校法人・公益法人会計基準の比較  
公益法人のガバナンスの更なる強化等に関する有識者会議への対応

#### 【勉強会実施状況】

- ◆01/18 オリエンテーション 調査日程と訪問先など、訪米調査に向けての確認事項
- ◆02/15 第1回 米国の非営利組織の概要  
米国の非営利組織会計の特徴および会計の観点からの論点出し

#### 【寄付事業】

- ①アジア調査会 「アジア太平洋賞」協賛金

#### 【会費】

- ①尾崎行雄記念財団 賛助会費
- ②アルカンシエール美術財団 法人賛助会費

#### <その他の事業>

#### 【自主事業】

##### ●若手リーダー育成研修事業

MRAの基本的精神を継承し、社会に貢献できるリーダーの育成・支援等を目的とした若手リーダー育成研修事業を2022年度より開始することを目標として本年度よりその準備を始めることとし、併せて、この研修事業の基礎を形作るために不可欠なMRAの基本的精神の研究調査に着手した。